

平成29年度 第19回政策推進会議報告

日 時 3月14日 9時30分～10時55分

場 所 4-1会議室

出席者 23人

1 尼崎市自転車のまちづくり推進計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果について

危機管理安全局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 自転車に関するプロジェクトを立ち上げていろいろな取組を進めており、複数の局にまたがって連携していただいている。この計画の進捗管理やPDCAについても、各局が主体的に関わって進めていけるよう、施策評価とも連動させながら進めていきたいと思うので、全庁的な取組として引き続きよろしくお願ひしたい。

2 自治のまちづくりに向けた地域振興体制の再構築(取組方針)(素案)に対する市民意見公募手続の結果について

ひと咲きまち咲き担当局長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 地域振興については来年度武庫地区でモデル的な取組を開始しようということになっているが、やはり「公民館の位置づけが大きく変わってしまうと実態も随分と変わるんじゃないか」という不安をお持ちの利用者がいらっしゃるの事実かなと思っている。しかし、私たちはむしろ社会教育の視点も踏まえた取組を地区会館でも公民館でも展開していきたいという趣旨でこれを進めているので、実態を見て不安を解消してもらえるように、しっかりと丁寧に取り組んでいきたいと思っている。一方で、今の利用実態でまったく変化を望まないという方も中にはいらっしゃるかもしれないが、今は公民館を全然使っていない方も視野に入れた拠点づくりということも同時に進めていくことになるので、そこは丁寧に説明してご理解を得ながら、よりよいものにしていきたいと考えている。そして、そういった取組を実のあるものにしていくには、そこで何がなされるかということが非常に重要となってくる。あらゆる分野を対象とした地域一体・地域発意の取組に対して、しっかりと私たちも一緒になって汗をかいて取り組んでいくという前提であるので、無関係な局は無いということでもよろしくお願ひしたい。

3 平成30年度の特定個人情報保護評価の実施にかかる「基本情報」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

4 「尼崎市児童手当事務 全項目評価書(素案)」に対する市民意見公募手続の実施について

総務局長から資料に基づき一括で報告。(以下、質疑等)

・基本情報においては「10万人以上30万人未満」とあるが、全項目評価書「3 特定個人情報

ファイル」では「件数：10万人以上100万人未満」とあり、範囲が違うのはなぜか。

児童手当事務の対象人数は、重点項目評価の「10万人以上30万人未満」に該当するが、本市ではマイナンバー制度開始から5年間は重点項目評価の対象となる事業も全項目評価を実施することとしている。一方で、国の定める特定個人情報保護評価書（全項目評価書）の様式には「10万人以上30万人未満」の区分がないため、「10万人以上100万人未満」を選択して記載している。

（市長）最初にマイナンバーが導入された時は、色々なシステムに一度に今回のような手続きが必要になったので、複数のグループに分けて順次まとめてプロセス計画書を出し、そのあと個別にパブコメを実施した。今回は、しばらく間が空いて後発組で出てきたことになるが、プロセス計画書とパブコメが同時に発出されることとなり、非常に全体像がわかりにくい。この全項目評価の取組は前からずっとやっているもので、これまでの経緯も全部見られるようにまとめ、通常の見聞とは別の項目として見せるほうがいい。「30万人未満であれば本来は義務ではないが、本市は全項目評価を行うことにしている」等の全部共通となる説明部分があり、そのうえで今回出てきてるのはこのパートだということがわかるような特別バージョンを作った方がいいと思う。

全体的な見せ方については今後検討する。

（市長）もともとパブコメ期間も30日と国に定められており、通常より長くなっている。やはり特殊な扱いにはなっているので、別に項目を立てるという方向で検討願う。市HPにパブコメのページがあるが、せめてこの特定個人情報保護評価関係だけまとめておくとか、基本はこの関係は古くなくても消さずに常に置いておくようにしたらいいと思う。

（市長）市民意見聴取プロセスに関連して、予算編成プロセスについても同じように特別バージョンとしてほしい。政策形成プロセスの中で施策評価に基づいた予算編成方針が発出され、それに基づいて意見を聞いていくという見える化に取り組んでいるが、通常のパブコメとワン・オブ・ゼムでやるにはあまりにも大きい。市政全体に係ることなので、きちんと予算編成過程の見える化に取り組んでいるということがわかるように、常設で格上に置いておいてほしいと前から感じていた。特定個人情報保護評価関係と予算編成関係の市民意見聴取プロセスについては、もう少しバージョンアップを図りたい。

（市長）マイナンバーの話に戻るが、新旧対照表を見ると、児童手当に当然係るだろうという項目と、他のシステムにも影響しそうな一般的な項目があるように思うが、既存のシステムについては変更しないのか。

今回の変更はこのシステムだけに係るところとなっている。

（市長）児童手当に係る証明書の発行はマイナンバーカードでできるようになるが、市の業務の中で電子申請を受け付けるのはこれが初めてか。

法人税等でeLTAX（エルタックス）というシステムを利用した電子申告を受け付けているが、今回のシステムから市民の皆さんが本当にカードを初めて使い始めてくれるかなという期待がある。しかし、マイナンバーカードの発行自体が10%程度しか進んでいないので、実際にどこまで浸透するかはわからない。

（市長）児童手当の手続きに来た人たちに「マイナンバーカードがあると便利だよ」というようなチラシは配るのか。

・そういう意図をもって、子どもの相談窓口の横にマイナンバーの窓口を設置し、その場で申

請手続きをしてもらえるような仕組みを整えていこうと考えている。

(市長) 国税庁の e-Tax は結構難しい。ブラウザは Internet Explorer じゃないといけないなどシステムが複雑で、サポートが必要だと感じる。多くの人が使っているスマートフォン等で動作環境が問題ないようになればまだしも、少し厳しいとは思う。

・国の提供するシステムが完成版でスタートせずにとんども変更されており、バージョンアップのたびに再インストールしないといけない仕組みになってしまっているため、利用者は大変。今回の児童手当事務のシステムについても、マイナポータルという国の全体の仕組みの中で申請を受け付けるということになるが、これが動き出したのも今年の 12 月なので、恐らくそんなに爆発的に普及することはないと思う。

今後は、保育所の入所申請やその結果通知、赤ちゃん検診の通知、予防接種の通知、児童扶養手当の現況届などを視野に入れてシステム化の検討をする。それらが実現されれば窓口の事務量をかなり減らすことができるが、先ほどから話があったようになかなか使いにくいというのが現状である。

5 長期未着手都市計画公園・緑地（尼崎市決定）の見直し（素案）に対する市民意見公募手続の結果について

都市整備局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

・パブコメ募集結果 No.5 の市の考え方において、競馬場周辺や競艇場周辺という記載があるが、この 2 つの周辺地域に限っては都市整備局でまちづくりの方向性を決めるということか。市全体で決めるという意味で記載している。競艇場は施設整備の方向性がまだ明らかになっておらず、水明公園を残していくときにどういう形態がいいのかということを決められないので、今のまま置いておくということにしている。

・競艇場周辺と書いているが、競艇場と水明公園だけを範囲とした考え方か。

あくまでも公園としての考え方である。ただ、公園として考えるには競艇場を含めた周辺のまちづくりの方向性が定まらないと決められないという意味合いで記載している。

(市長) 既に競艇場や競馬場であるところを将来的に公園としてどうするかという議論をする場合には、それぞれの事業が終息しているという前提になるだろう。

そういうことも今の段階では議論できないため、少し曖昧な書き方をしている。特に大庄地区周辺は総合公園がないため、水明公園の規模をもう少し拡大しないといけないだろうという考え方もある。しかし、今の段階で大きさやどういうところを公園として整備していくべきか残していくべきかという議論ができないので、将来に結果を預けるような形にしている。

・非常に期待感を持たせるような書き方になっていると思う。もう少し現状を素直に書いたほうがよいのでは。

・「競馬場周辺の防災面も含めたまちづくり」という表記があるが、競馬場は猪名川藻川の水害エリアにおける重要な避難場所になっており、そういったことも含めてかなり深読みしたくなる表現なのかなと感じた。

(市長) 特に藻川公園は競馬場や河川を含むかなり広い地域となっている。しかし、既に住宅が建っているところもあり、事実上ここをもう一度公園にするというのは大勢ではない。

河川敷は残すが、それ以外は計画から外そうと思っている。

(岩田副市長) 公表資料については関係局ともう一度調整する。

6 その他

危機管理安全局長から、自転車総合ポータルサイト「尼っ子リンリン」について説明。

企画財政局長から、施策評価表の作成依頼について説明。(以下、質疑等)

・従来通りの方向性をベースにしながらか作業を始めていくというのはいいと思うが、今後に向けて制度そのものや市民意見聴取の仕方など、そういう大きなところでの改善については各局の意見を聞きながら進めていく必要があると思う。

(市長) 特に後期からは主要取組項目が局またぎまくりになるので歯車で表現したが、そこを調整していくのは三役の出番かなと思っている。一方、各局で完結するところは局長にリーダーシップを発揮していただきたい。今回の施策評価では、行政運営のパートもシートを作るというのが大きな特徴になっている。これにはファシマネ、人材育成の取組や人事評価の振り返り、研修のあり方等を記載する。あと大事なものは協働の部分で、市民意見聴取プロセスもここに入ってくると思う。各局がいろいろな取組を行っているが、やはり上手くいった事例もあれば反省点がある事例もあるので、そういったことを組織全体で共有しながらしっかりと改善していきたいと思っている。そういうのが少し見えてきた段階で、一度、調整の会議を入れたいと思う。

(市長) 配布資料の中に市長コメントを入れている。一年間を振り返ったときに何がポイントだったか、抜けてるところはないかという視点で総括をお願いしたい。いつも言っているが、コピー＆ペーストは思考停止に陥りやすくなると実感しており、前年度の記載をそのまま入れたものをスタート台にしまうと、大事なものが抜け落ちてしまうのではないかと危惧している。全体を見ている局長ベースでまず1年間を振り返っていただいて、シートづくりをしていただきたい。

ひと咲きまち咲き担当局長から、尼崎しみんシップまつりについて説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、尼崎城の寄付金の状況について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、健診すずめ通信のWEBサイトに対する不正アクセスについて説明。

都市整備局長から、都市計画まちづくり講座『選ばれるまち・いえづくり 都市計画の可能性』の実施について説明。

企画財政局長から、総合計画読本『45万人のまちづくり BOOK』及び市民懇話会で作成した動画等について説明。

危機管理安全局長から、Jアラートの訓練について説明。

市民協働局長から、国保の新しいシステムの稼働予定について説明。

森山副市長から、講座等をできるだけ尼崎大学の取組としてPRしてほしいと要請。また、総合計画市民懇話会作成の動画を見ていただき、各局の事業が総合計画とどう関係しているのか考えるきっかけとしてほしいと要請。

以上